

# 残業減らし収益アップ

働き方改革企業



受賞を喜ぶ経営管理部メンバー

## 信幸プロテック(中町)優秀賞

社員の自発性から

矢中町広宮沢の空調設備業、信幸プロテック(村松守社長)が3月18日、生産性向上と働きやすい職場環境作りに取り組む企業を表彰するワーク・ライフバランス(東京都)主催の「働き方改革企業2019」の優秀賞に選ばれた。全国で27社が入賞し、県内では2社が優秀賞。同社は、改革前の2016年度(4~11月)と比べ、今年度の残業時間は15%約600時間減少、売り上げは24%(約1億円)アップした。自社らしい活動から生産性向上につなげたと評価された。

同社は、18年6月か境を変え、若手社員から県の事業の下、内勤 向上心につなげたいとの経営管理部で働き方改革をスタート。採用 難や介護問題による将来的な人手不足を見越したことで、残業が多くなり、休日出勤もいらない風潮、役職が上がると業務が増える環境

まず部内7人の個別業務を洗い出し、必要な業務を厳選。請求書

の整理、見積書作成、部材購入の手続きなど200個以上の業務を56個まで統合・整理し、

誰が何をできるかを「見える化」した。各業務内容のマニュアルを作り、担当が不在でも全ての業務に対応できるようにした。

業務内容の理解を深めるため、現場スタッフに同行し、空調設備の修理・設置の様子を写真や動画に収め、全員で共有。設備の基礎知識や仕組みを学ぶ勉強会を業務時間内に開き、受付対応で何を聞けば現場がスムーズに回るかを検討した。パソコンや電話対応の講座も開き、作業のスキルアップも図った。

社員の相互理解を深めるために、仕事以外の趣味や学習、頑張りごとを共有する場も設定。早く帰宅することや、休むことのメリットを認識する機会にした。

さらに、業務をIT化して作業効率を向上。受注内容や顧客情報を現場スタッフにメールで送る作業に、顧客情報がひも付けされたクラウドシステムを導入し、作業時間を5分の1に短縮。年間221時間の作業が44時間まで減った。

見積りや請求の登録、入金の確認もこのクラウドシステムを活用し、受け付けから入金確認までのトータル作業時間が今年度(4~1月)は16年度同期比45%(201時間)減となった。

村松専務(44)は「会社の指示でなく、社員たちが自発的に改善内容を考え、実践したことが成果につながった。公私の状況を共有したことで社員同士に信頼感が生まれ、言いたいことを言える環境になった」と効果を振り返る。

県の事業が終了した1月以降も、2週間に1度改革の会議「カエ

ル会議」を継続。その効果を見て工事、サービス、設備部門でも働き方改革に取り組み始めたという。まず、社員の話し合いの場をたぐさん設けること。社

する自発性が、個人のパフォーマンスを上げ、短い労働時間で成果を生み出す結果につながると話した。ベアレン醸造所(岡市北山)も優秀賞を獲得した。